

生活単元学学習指導案

指導者 小野村 晃太

- 1 日 時 令和5年11月18日(土) 第2校時(10:05~10:55)
- 2 学年・組 中学校第2学年3組 計4名(男子4名)
- 3 場 所 中学校第2学年3組教室
- 4 単元名 わたしと東雲のまち
- 5 単元について

本学級は、知的障害特別支援学級であり、男子4名から構成されている。言葉でのコミュニケーションは得意だが、筋力が弱く細かい作業や書字が難しい生徒、集団になると緊張して何をしたいかわからず、口頭での指示理解が難しい生徒、過去の失敗経験から自己肯定感が低く消極的になってしまう生徒等、実態は様々である。4人は、全員異なる小学校の出身で、入学当初は自分から相手に関わっていくことは少なかった。しかし、中学校での生活や学習を通して、互いに助け合う場面や、話し合いで物事を決めることができたり、役割分担をしたりといった姿が多く見られるようになってきている。一方で、自分自身のことについて関心が向きづらく、授業準備では保護者や友達に頼ってしまったり、失敗経験の積み重ね、生活経験の少なさからくる自己肯定感の低さが原因の一つとなって、一人で何かを決めて行動することが億劫になったりしてしまうという課題が見られる。

本単元は、生徒が自分の生活を振り返って、自分たちが当たり前に使っているものは一体どこから来ているのか、どこで手に入るのか、という疑問からスタートする。生徒が自分自身の生活に注目することで、「自分事」として本単元に取り組んでいけるようにする。また、本単元は東雲の町を舞台に展開する。生徒はこれまでに、生活単元学習では町探検(通学路探検)やゆるキャラ(しののめさん)探し、余暇活動、買い物学習、国語では郵便局に行く等の活動を通して、東雲の町に触れてきた。こういった学習の中で、東雲の町にはどのような店・企業・施設や自然があるかを実際に見たり、地図にまとめたっている。生徒自身のことと、これまで学習してきた東雲の町をつなげることで、生徒の思考を促し、意欲的に活動に取り組む姿を引き出したい。最後に、生徒各々のこれまでの生活経験を言いながら、単元の初めに挙げた疑問に対する答えを予想したり、実際に確認したりして「これはここに行けば手に入る」という知識だけではない成功経験を積みませたい。この成功経験から、今後行われる修学旅行の持ち物の準備を自分から行ったり、家庭に帰って、消しゴムや歯ブラシなど自分で買いに行ったりという行動につなげていく。

指導にあたっては、地図やカード・写真など、生徒が視覚的にわかり、具体的に操作しやすいものを準備する。書字が苦手な生徒、短期記憶が苦手な生徒の思考の促しとして活用する。また、授業では話し合う時間、発表する時間、意見を言う時間を明確にする。自分とは異なる意見や考えに触れる時間を意図的に設定することで、他者の生活経験を想像して疑似的に体験したり、自分の経験と比較したりして、生活の幅を広げることを目的として行う。さらに、自分の意見と他者の意見を自分で比較することが難しい生徒には、一つずつ確認の言葉がけを行い、思考を促す。まとめの場面では、話したり考えたりしたことを、写真に撮ったり文字化してまとめておくことで、次の学習につなげていく。

6 単元の目標

- (1) 自身の生活を振り返り、普段当たり前に使っているものについて考えることで、自分のことに関心を向けることができる。
- (2) 自分たちが普段使っているものが、東雲の町ではどこで手に入るのか、既習知識やこれまでの自分の経験をもとに予想することができる。
- (3) 他者の発表を聞き、自分の意見と比較・対応させて考えることができる。

7 指導計画（全 12 時間）

次	時	学習内容
1	2	黒のマーカーってどこで買える？
2	2	自分がいつも使っているもの
3	2	東雲のまちのどこにある？（本時 1 / 2）
4	4	確認しに行こう！（校外）
5	2	まとめ

8 本時の目標

- 自身の生活経験をもとに、普段わたしたちが当たり前に使っているものがどこで手に入るのか予想することができる。
- クラスメイトの発表を聞き、他者の意見を受け入れたり、自分の意見と比較して考えたりすることができる。

生徒	本単元に関わる実態	個人の目標（本時）	目標達成のために考えられる手立て
A	語彙は比較的豊富で、他者とのコミュニケーションもよく取る。 筋力の弱さや動きの遅さから「誰かにやってもらおう」ことが多くなりがちで、自身のことに関して無関心になりがちである。	自身の生活経験を振り返り、意欲的に予想に参加することができる。	これまでに学習してきた東雲の町を舞台にすることで意欲を引き出す。操作しやすいカードを用いることで、積極的に予想に参加しやすくする。
B	責任感が強く、学習の意欲が高い。家庭では一人っ子で、友達と遊ぶことも少ないため、生活経験の広がりが少ない。	発表を聞いて他者の生活経験を知り、自分の生活経験と比較して意見することができる。	他者の生活経験を受け入れたり、比較したりすることができるよう、互いに意見を言い合う時間を設けたり、言葉がけで促したりする。
C	自身が経験したことはよく覚えており、他者に詳しく説明することができる。 授業準備などは他者に頼りきりで、自分で責任もってやるという意識が薄い。	自身の生活経験を振り返り、意欲的に予想に参加することができる。 他者の発表を聞き、その意見を受け入れることができる。	理由を「経験したこと」とすることで、意見を促す。 他者の生活経験と自分の生活経験が区別できるよう、言葉がけや視覚的に枠を作る。

D	学習意欲が高く、成功経験の積み重ねにより少しずつ積極的になってきた。他者への気配りは率先して行えるが、自分自身で何かに挑戦する際は足踏みしてしまうことが多い。	自身の経験を踏まえ自信をもって発表することができる。 発表を聞いて他者の生活経験を知り、自身の経験と比較して考えることができる。	予想をする段階で、自分の経験を理由として書くことで、予想した地図を頼りに発表できるようにする。
---	---	---	---

9 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
<p>1. 導入（10分）</p> <p>□前時までの振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までにまとめた、「自分たちが毎日使っているものリスト」を確認する。 ・これまでの学習で作成した、東雲の地図を確認する。 	<p>○前時までにまとめた、「自分たちが毎日使っているものリスト」を提示する。</p> <p>○活動の目的・目標を生徒の言葉で確認する。</p>
<p>普段使っているものがどこで手に入るか、経験をもとに予想してみよう。</p>	
<p>2. 展開①（15分）</p> <p>□2つのグループに分かれて、地図に予想を書き込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分たちが使っているものリスト」を「学校で使うもの」「家で使うもの」の2つに分類し、それぞれ2名ずつで予想する。 ・地図上の店の近くに、使うもののイラストが描かれたカードを貼る形で予想する。 	<p>○予想をするときに、必ず理由を付けるように促す（活動に入る前に型を提示）。（例：前に似たところで買ったことがあるから。何となく。。等）</p> <p>○思考を素早く地図に反映できるように、使っているもののイラストカードを地図に貼る形で予想できるようにする。</p> <p>◆理由（自分の生活経験等）をもとに、予想することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>◆2人で話し合いながら、活動時間を意識して地図にカードを貼っていくことができる。【主体的に学習に取り組む態度】</p>

<p>3. 展開② (15分)</p> <p>□予想した内容を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、黒板に地図を貼って予想と理由を説明する。 ・発表するだけでなく、聞く側は質問したり、自分の経験を伝えたりする。 <p>4. まとめ (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表した際に出た意見を、地図に反映させる。 ・地図を生徒がそれぞれタブレット端末で撮影し記録する。 ・本時の予想に対する感想をワークシートに書く。 ・次時以降の内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表するときに、予想した内容だけでなく、そう考えた理由も併せて話すように促す(活動に入る前に型を提示)。 ◆相手に伝わるように工夫しながら発表することができる。【知識・技能】 ◆他者の経験と自分の経験を比較し考えることができる。【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学びを振り返り、記録をすることができるよう、十分な活動時間を確保する。 ○本時の予想に対する感想をワークシートに書くよう促す。 ○感想を書く手がかりとなるよう、地図は黒板に掲示したままにしておく。
---	--

10 単元構想

本単元は、生徒から出た「黒ペンって、どこに売っているの?」という疑問から出発した単元である。「買い物」の経験は生徒4人ともに少ない。また、居住地がそれぞれ市や区をまたいで多様なため、生活圏内にある店舗にも特徴があり、生徒が主に利用する店舗にも違いがある。このような実態でスタートした本単元は、自身の生活に目を向ける、自己肯定感の向上、そこから本単元で身に付けた知識や、経験を実生活で活用する所までを狙っている。

そこで、この狙いを達成するために、ただ買い物の経験を積ませるのではなく、以下の2つの方法を行った。

(1) 生徒それぞれの経験を共有する時間の設定

(2) 予想→確認による知識、価値観の補強・修正

(1)は、話し合いを通して、それぞれが持っている知識や経験を共有しあい、それぞれの知識・経験の少なさを増やしていく目的で行う。併せて、自分の経験を相手に話すことで、自身の生活に目を向けることにつなげたい。また、話し合いの活動は(2)の「予想」をする場面で設定する。それぞれの知識や経験を擦り合わせて予想し、実際に買い物を経験することで、予想が合っていたときも、予想と違ったときも、そこで得た知識を生徒にとって確かなものにし、彼らの生活の場までつなげていきたい。また、予想に時間をかけることで、予想と違ったときの経験を生徒に印象付けたい。

本単元では、この(1)、(2)の方法を「黒ペン探し」「身近なもの探し」のそれぞれで行った。以降は、この方法でアプローチした内容について、授業分析を行う。

1 「黒ペン探し」

(1) 生徒それぞれの経験を共有する時間の設定

本単元では、生徒同士で話し合いを行う場面を主に「予想」を行うときに設定している。また、話し合いの前には必ず個人で考えを書く時間を設定した。これは、すぐに話し合い活動に入ってしまうと、自分の考えを整理できず、意見を言うことが難しくなってしまう生徒がいるためである。表1は、生徒が個人で考えたもの、写真1は、話し合いで出た意見を板書で共有した写真である。

表1

黒ペンってどこに売ってるの？	
生徒A	百均、コンビニ、スーパー、文房具屋
生徒B	百均、コンビニ、スーパー、EDION
生徒C	セブン、イオン、ゆめタウン、コーナン
生徒D	予想がほとんど出てこなかった。

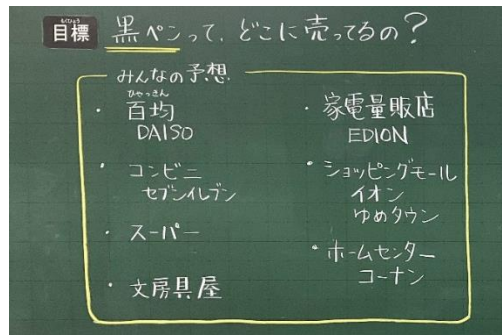


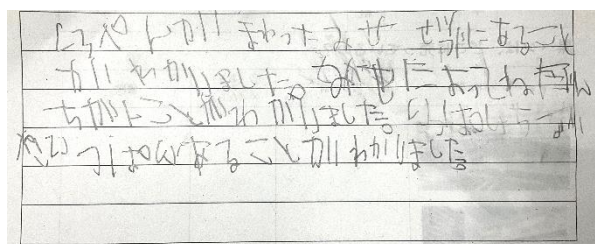
写真1 生徒から出た意見

生徒A、生徒Bは比較的似た予想をしている。ここで特徴的なのは、生徒Cから出た意見が、スーパーやコンビニ等の総称ではなく、固有名詞を使って答えている点である。生徒Cに、例えば別のコンビニでは売っていないのか問うと「ない」と返事があった。また、生徒Dは意見を書くことができなかった。全く見当がつかないというのではなく、自信がないといった様子であった。

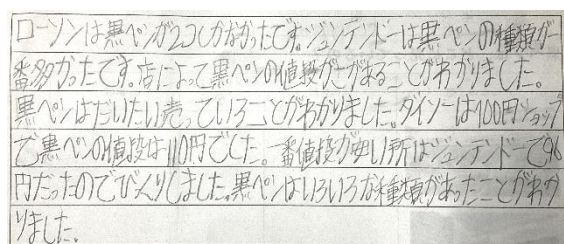
話し合いでは、生徒Aが生徒Bの家電量販店という意見に「怪しい」と疑いの目を向けて意見していた。それを受けた生徒Bは、遠慮がちなながらもあると反論していた。生徒Dは、他の生徒の意見をうなずきながら聞いていたが、実感はわいていない様子であった。

(2) 予想→確認による知識、価値観の補強・修正

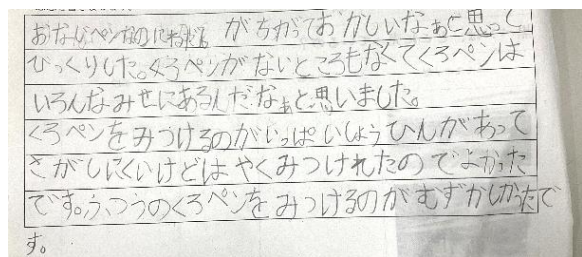
(1)の予想を受けて、7店舗をめぐり確認した。写真2は、それぞれの生徒が確認を終えて書いた感想である。



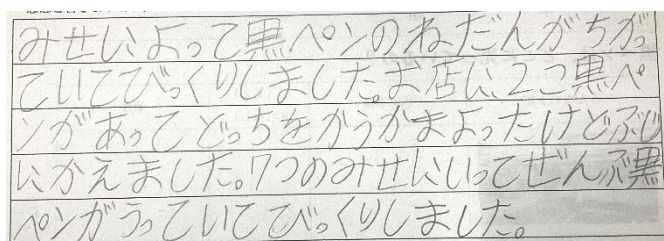
(生徒A)



(生徒B)



(生徒C)



(生徒D)

写真2 黒ペン探し後の生徒の感想文

4人の感想は、①主に黒ペンが売っている「場所」に言及したもの、②売っている黒ペンの「種類」に言及したもの、③売っている黒ペンの「値段」に言及したものの3つに分けられた。①に関しては「黒ペンはいろんな所にあった」「自分はないと思っていた所に黒ペンがあった」と、経験から知識を得たり、自分の考えが修正されたりしている様子が見られた。また、②、③の視点については、予想の段階では出てきていない視点であったが、実際に確認し、経験することにより生徒の興味が広がっていることがわかった。

2 「身近なものの探し」

(1) 生徒それぞれの経験を共有する時間の設定（授業動画）

ここでは、生徒が身近に使っているものをできる限りたくさん挙げ、それらはどこで買うことができるか「予想」した。予想する際は、生徒から挙げられた身近に使っているものをそれぞれ「学校で使うもの」「家で使うもの」の2つに分け、その中の商品のいくつかについて、ペアで予想を行った(図1)。

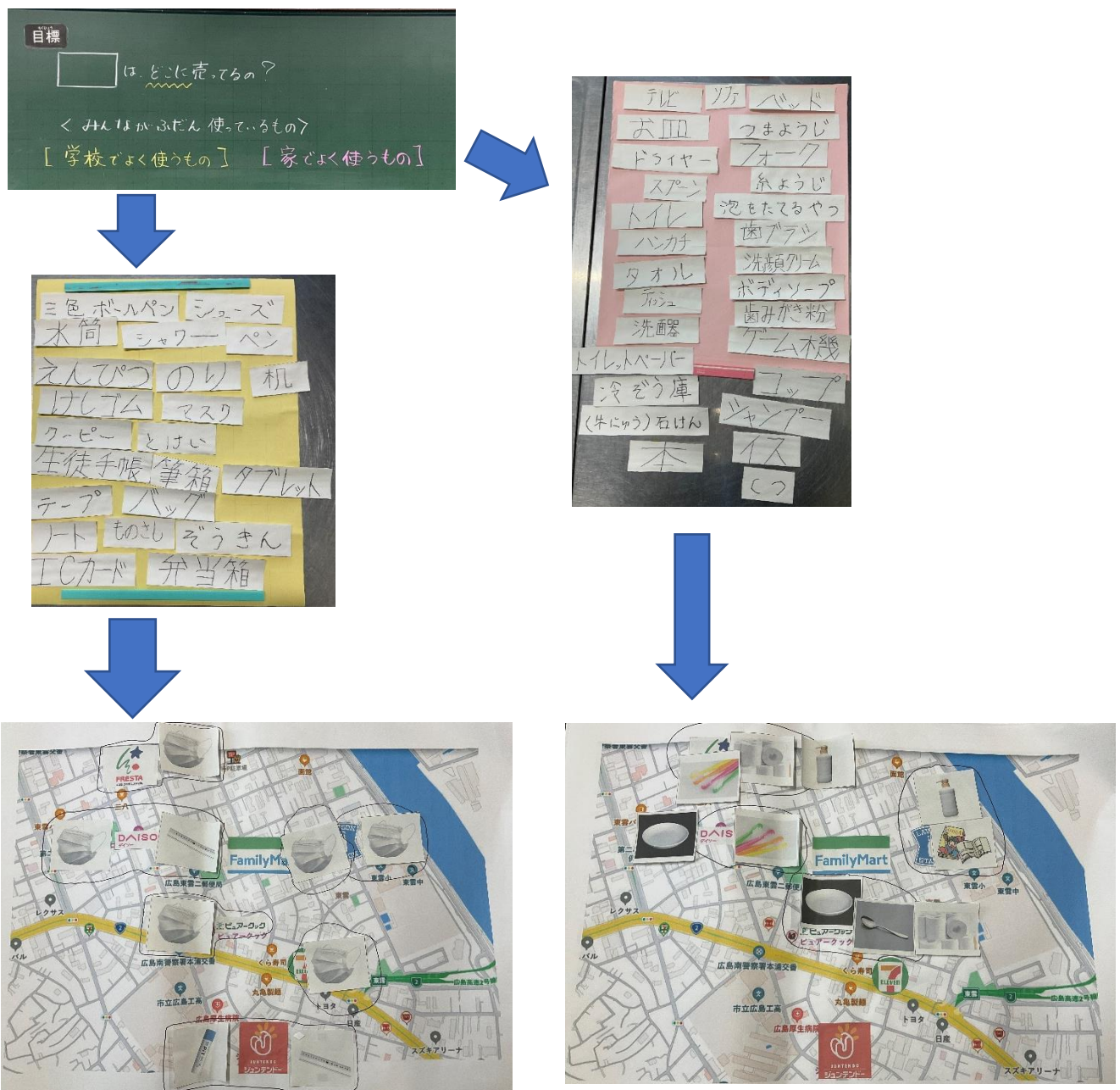
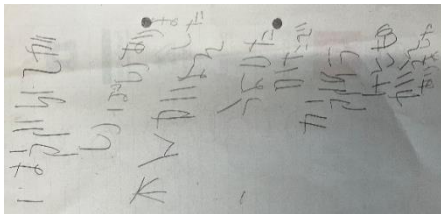


図1

「学校で使うもの」は生徒 A, B, 「家で使うもの」は生徒 C, D のペアで予想した。生徒 A, B のペアでは、「のりはホームセンターにあるかないか」で議論が起こった。生徒 A がない, 生徒 B があると意見し, 生徒 A の意見に押される形ではあったものの, 生徒 B が説得を試み, 地図上には生徒 B の意見が反映された。一方, 生徒 C, D のペアでは, 生徒 C がマンガはローソンにはあるが他のコンビニにはないと意見した。これは, ローソンが自分の家の近所にあり, 実際に見たことがあるというのが理由で, 他のコンビニは行ったことがない(頻繁に行かないので覚えていない)からそこにはマンガはない, ということであった。生徒 D は, 「黒ペン探し」の際は自信がなく意見が書き出せなかったものの, 今回は予想する対象が多かったり, 初めて行う活動ではなかったりしたため, 自信をもって自分の意見を言い, 予想することができた。

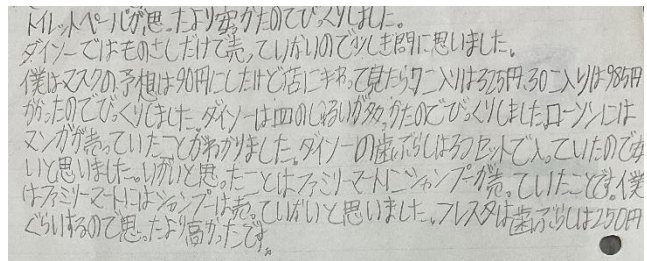
(2) 予想→確認による知識, 価値観の補強・修正

(1) の予想をもとに, 6 店舗をめぐり確認した。写真 3 は確認を終えた生徒が書いた感想である。

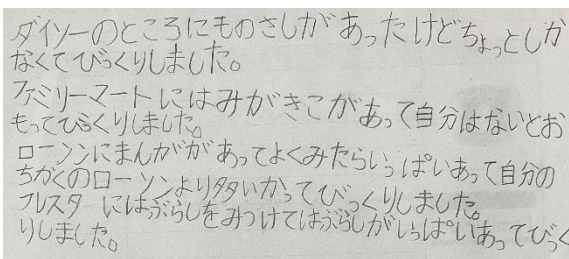


歯ブラシがいっぱいありました。
本が, 予想したより高かったです。
セブンに消しゴムが売ってありました。

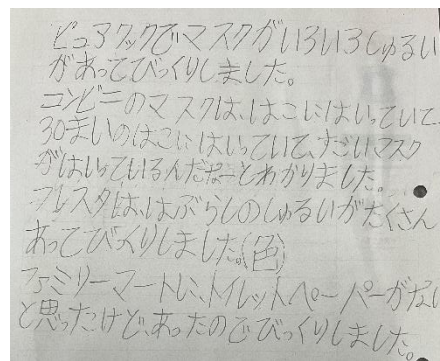
(生徒 A)



(生徒 B)



(生徒 C)



(生徒 D)

写真 3 身近なものの探し後の生徒の感想文

それぞれの感想を見ると, 売っている場所や値段が予想と違ったこと, また種類の多さに「びっくりした」「意外だった」等, 気持ちを表す表現が多用された。普段は, 事実を羅列することが多く, 自分の気持ちに関する言葉が文章に表れる頻度が少ないため, それだけ印象に残っている, と推測することができる。

本単元の成果と課題

本単元では、自分の生活に目を向けて、知識や経験を共有し、それをもとに予想したことを実際に確認することで、自己肯定感を向上させ（自信をもつ）、そこから学校生活だけでなく生活の場面での活用することができるようになることを狙って、前項の（１）、（２）の手法を取り入れた。

（１）生徒それぞれの経験を共有する時間の設定、では、少ない経験値を補い合い増やしていくことを狙ったが、難しかった。それは、「黒ペン探し」の話し合いでの生徒 D の様子からうかがえた。他者の経験を聞いて自分のものにするというのは、やはり実感がわきづらく、難しかった。一方で、話し合いをする中で、相手を説得するために自分の経験したことを振り返り、分かりやすく伝えようと工夫する様子も見られた。これは「身近なもの探し」での生徒 A、B のやり取りである。このやり取りの中で生徒 B は、自身の経験、知識を伝えるための根拠を必死に探し、自分がこのことについてどれだけ理解しているのか、客観的な視点で捉えることができていた。

（２）予想→確認による知識、価値観の補強・修正では、「黒ペン探し」「身近なもの探し」それぞれの感想を見てわかるように「自分の予想が当たった」「予想と実際が違って驚いた」等、自身の知識を確かなものにしたり、修正したりすることができた。特に、予想に反した結果だったものは「驚いた」や「びっくりした」など感想文に自身の気持ちが表れており、ただ買い物を経験するよりも強く印象付けられた。また、このことによって「買い物」に対する（経験のなさから来る）自信のなさをいくらか払拭することができた。

一方で、単元の最後に生徒が書いた感想の中に「今度ペンが書けなくなったら自分で買いに行きたい」「自分で買いに行ってみよう」というような、前向きな気持ちの表れがうかがえる言葉は出てこなかった。実生活につなげるという点に関しては、今回の２つの取り組みだけでは十分に結びつけることができなかった。その後の家庭とのやり取りの中で、買い物に行く際に保護者の方の方から働きかけてもらうよう連携を行っている。継続的に取り組んでいきたい。また、自分たちで予想し実際に確認するという活動から、予想の段階では出てこなかった「種類」「値段」という視点が生徒の感想から出てきた。生徒自身が見つけた興味を活用しながら、学校で得た学びを、生徒の生活の場までつなげていきたい。

【引用】

本単元の授業で扱った地図は、Yahoo! マップを用いている。